

TTC スペクトル管理 SWG 寄書

---

日付：2004年 3月26日

提出元：株式会社アッカ・ネットワークス

題名： JJ 100.01（第3版）に関する検討の進め方

---

1) JJ 100.01（第3版）に関して、公表されている技術条件などにより判断可能な下記3項については、早急に結論を出すことを提案する。

(ア) 干渉源がISDNの場合の干渉モデルの見直し

- 具体的には、ループ抵抗810オーム超（線路長2.7km超）におけるISDNのカッド内収容を除くこと。
- 線路損失43dB超（線路長3.8km超）におけるISDNの隣接カッド収容を除くこと。

(イ) サブキャリアのビット数見直し

第2版は8ビットとなっているが、実際にサービスに供されているADSL方式では15ビットが採用されている。現状の保護判定基準値では低い値となっており、ユーザに誤解を与える可能性が高く適切ではないので15ビットに変更する。

(ウ) スペクトル適合性確認結果における回線損失の表示

各システムの確認結果の表において“線路長”とすべきところが“距離”となっている。明らかな誤記であるので改版を待たず早急に修正すべきである。

2) 次に、公表されている技術条件など客観的な事実、技術的な根拠のみでは判断できない検討課題に関する議論、意見の集約を早めるために別紙の“各社の意見集約表”の使用を提案する。

以上